

統合報告書の紹介

Integrated Report of Our Domestic Companies

ABSTRACT

Integrated reports, while familiar to institutional investors, are not widely known. They include both financial and non-financial information, such as corporate governance and social initiatives. Originating from a focus on corporate social responsibility by overseas investors, these reports have gained traction globally. In Japan, spurred by initiatives like the Corporate Governance Code and ESG investment trends, more companies are producing integrated reports. Last year, our company embraced this trend by determining materiality, calculating CO₂ emissions, and aligning with the TCFD guidelines. We have since produced an integrated report covering our company and two domestic subsidiaries, showcasing our commitment to transparency and sustainability.

1 はじめに

「統合報告書」は機関投資家の方々などにはなじみ深いものですが、一般的には広く知られているわけではありません。この報告書は、従来、企業の売上や資産など法的に開示が定められた財務情報に加え、企業統治や社会的課題に対する対策（気候変動、環境保全、人権問題など）、知的財産、人的資源などの非財務情報をまとめたものです。この二種類の情報はただ併記するだけでなく、どのように関連し、どのように企業が成長していくかという道筋を示すことが重要であるとされています。

もともと欧米を中心とした機関投資家が投資する際に、企業の社会的責任を重要視し始め、これに対応すべく財務情報と非財務情報をまとめて発行するようになったことが統合報告書の始まりです。日本国内においても、金融庁と東証が策定したコーポレートガバナンス・コードにおいて、非財務情報の開示を促していること、ESG投資の高まりなどによって、特にプライム上場企業における発行が増えています。

このような情勢の中、当社においても前年の粉砕誌で紹介したように、マテリアリティの決定、CO₂排出量の算定と削減目標の設定、EU（欧州連合）

のサステナビリティ報告指令であるCSRDのドラフトに対応したESGデータ集の製作、ならびにTCFD対応などを国内で進めてきました。これらの成果を踏まえ、当社および国内のグループ会社であるホソカワミクロン化粧品（株）（旧）、ホソカワ受託加工（株）の三社を対象として、統合報告書を製作しました。本文ではその内容などについて概要を紹介します。内容の詳細については以下に掲載されている電子版をご参照ください。

<https://www.hosokawamicron.co.jp/jp/ir/library/integrated.html>

2 各章の概要と特徴

今回の統合報告書の表紙を図1に示します。複数のデザイン案の中から、世界に関係企業を保有する当社のグローバルな視点と、今期中期経営戦略における姿勢を表現したデザインを選びました。ドットで表した地球で世界中に普及する粉体技術を表し、世の中のあまねく製品や業界を支えている「粉体」の社会貢献度の高さを醸成しています。さらに、右上のオブジェクトで日本列島を拡大して表示し、日本企業としてのアイデンティティを強調しています。

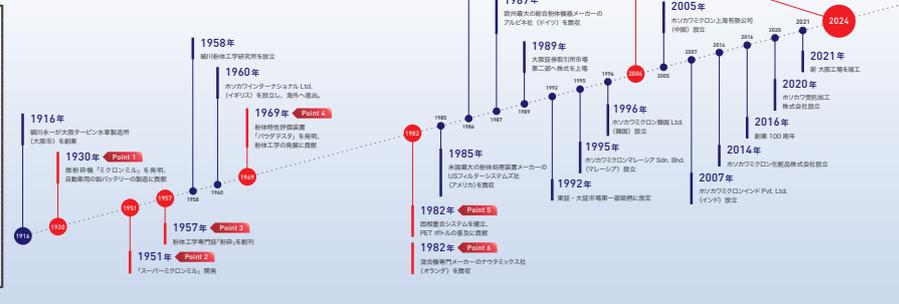
企業案内
沿革

ホソカワミクロン108年の歩みと成長

興隆時機ミクロンの黎明(始まり)、変化し続ける社会のニーズに答えて、常に新しい粉砕関連技術を提供してきました。

粉砕技術との出会い

創始者・三浦清一氏が、創業したホソカワミクロン(当時は「ホソカワ粉砕機製作所」)の前身である「三浦粉砕機製作所」で、粉砕技術の専門家として活躍することになった。三浦氏は、粉砕技術の専門家として、粉砕技術の専門家として活躍することになった。三浦氏は、粉砕技術の専門家として、粉砕技術の専門家として活躍することになった。



Point 1 設備の進化が自動車の普及に貢献

Point 2 中国地方の産業に「大規模」を創出した

Point 3 学界とのつながりを創出し、さらなる技術向上を目指す

Point 4 粉砕特性を捉える新高度測定技術を開発

Point 5 飲料水を手軽に、清潔に持ち運べるPETボトル普及への貢献

Point 6 世界を駆け巡る事業展開に着手

Point 7 粉砕技術の力を活かし、新たな事業へ挑戦

図3 沿革：ホソカワミクロン 108年の歩みと成長
Fig. 3 History: Hosokawa Micron's 108 Years of Progress and Growth.

価値創造ストーリー
価値創造プロセス

ミッションステートメント **粉体技術の開発を通して 社会に貢献する**



図4 価値創造プロセス
Fig. 4 Process for value creation.



図5 女性役員による座談会
Fig. 5 Roundtable of our female execs.

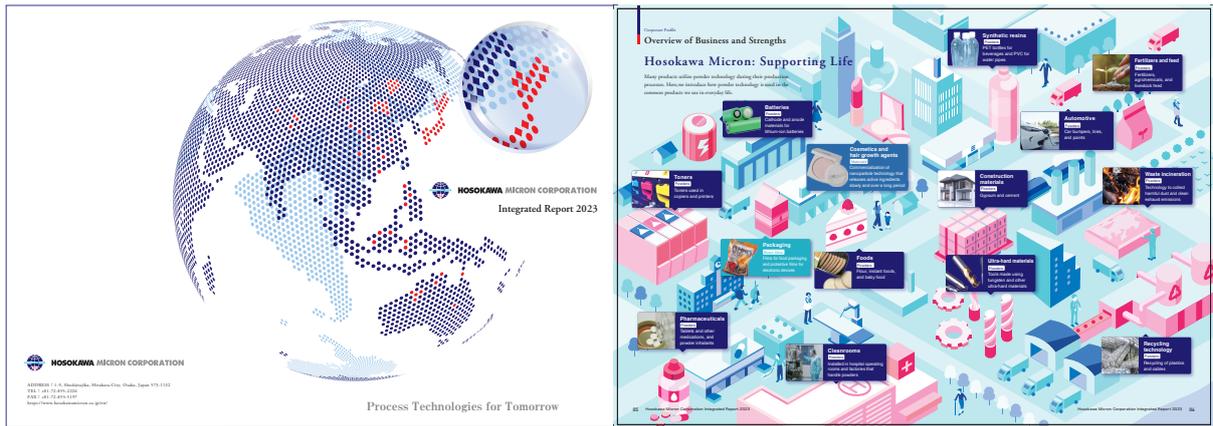


図6 統合報告書の英語版 <<https://www.hosokawamicron.co.jp/en/ir/library/integrated.html>>
Fig. 6 English version of the Integrated Report.

務的な資本と財務情報の関わりをイメージ図で示したものです。ビジネスモデルとアウトカム、そしてアウトプットの関係を図示しています (図4)。

2.3 女性役員座談会

四人の女性役員による座談会を開き、当社の現状と課題、将来への展望などオープンに語り合ってもらいました (図5)。

3 おわりに

今回は初発行ということもあって国内グループ三

社のみを対象としましたが、英語版も製作しました (図6)。今後の発行にあたっては、グローバル企業として、海外グループ会社を含めた地球温暖化ガス排出量の開示や、対策、および非財務情報の開示が必須となるため、必要なデータの収集を始めています。統合報告書の発行を通じて、世界中のステークホルダーの皆様へ、未来へと成長していくホソカワミクロングループの情報を発信していく所存です。

【ホソカワサステナビリティ ワーキンググループ
事務局／経営企画部課長 井上義之 記】

ト
ピ
ッ
ク
ス